

第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

政策の大項目	政策の中項目	政策の小項目(施策)
5 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり	1. 望ましい教育の実現	1. 教育環境の整備・充実 2. 心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実 3. 「生きる力」を育む市民活動の展開
	2. 歴史遺産を活かしたまちづくりの実現	1. 国史跡白山平泉寺旧境内を中核にすえたまちづくり 2. 歴史遺産の保護・活用の推進
	3. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進	1. 学習機会と施設の充実 2. リーダーの養成 3. 自然体験学習・ジオパーク学習の推進 4. 図書館機能の充実
	4. 豊かな心と感性を育む文化芸術の振興	1. 伝統文化の保存継承 2. 文化芸術活動の充実
	5. 生き活きと輝くスポーツの振興	1. 競技スポーツと生涯スポーツの推進 2. 体育施設の整備・充実 3. 平成30年国民体育大会の開催

1. 望ましい教育の実現

少子化による児童生徒数の減少に対応し、将来にわたりより良い教育環境の実現に向けた学校再編を地域の意思を尊重しながら進めていきます。

また、これからの社会に対応するため、「課題を見いだし解決する」、「自然や環境と共に生きる」などの力を身につけさせます。そして、未来を担う子どもたちを家庭・学校・地域が協力して育てていきます。

(1) 教育環境の整備・充実

■基本的な考え方

- 望ましい小中学校等の実現に向け、小学校においては、児童同士が多様なコミュニケーションを図る環境を目指すため、地域の意思を十分尊重することを基本としながら、複式学級の早期解消など再編への取り組みを進めます。

中学校においては、全教科における専任教員の配置や部活動の選択肢幅の拡大などを図るためできるだけ早期の再編を目指します。

学校再編をすすめることにより、より良い教育環境の実現を目指し、未来を担う子どもたちへの情報教育の充実を図り、わかりやすい授業を行い、児童生徒の学力向上を図ります。

また、幼稚園については、幼保一元化へ向けた国の新たな制度に対応し、幼稚園機能の維持およびより利用しやすい体制を目指します。

安心・安全な学校環境を実現するため、勝山市建築物耐震改修促進計画に基づき、耐震化工事を実施するとともに大規模改造工事、エコ改修工事も実施します。

■施策指標

- 小中学校再編について

現 状	平成27年	平成32年
<ul style="list-style-type: none"> 素案の提示 地区別、小中学校区別座談会の開催 素案の見直し案 再提示 中学校区別座談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校再編について、すべての校区における検討委員会の設置（～H27年度） 中学校再編に向けた方向性の確定（H23～H24年度） 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校再編にかかる地域との合意形成

- 小中学校における視聴覚機器⁵⁸等の整備率

現 状	平成27年	平成32年
70.4%（各階）	100%（各階）	
39.2%（各普通教室） （H22年度見込み）	（H27年度末）	100%（各普通教室） （H32年度末）

⁵⁸ ※視聴覚機器

プロジェクター・電子黒板など、視覚や聴覚に訴える教育機器。

■重点項目

- ・小学校再編に係る地域との合意形成
- ・同意を得られた地域からの小学校再編の実施
- ・中学校の再編
- ・校務用コンピュータ、教育用コンピュータの計画的更新
- ・電子黒板等の活用
- ・時代に即したICT⁵⁹環境の整備と教育用コンテンツ等の整備
- ・学校耐震化工事にあわせた省エネ改修(二重サッシ、断熱ガラス、断熱材、節水型トイレ、省エネ機器の導入)
- ・環境、エネルギー教育に向けた備品の整備
- ・太陽光発電⁶⁰の検証、普及
- ・幼保一元化の推進

(2) 心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実

■基本的な考え方

- ・児童・生徒にとって楽しくわかりやすい授業を行うために改善に努め、基礎的・基本的な知識および技能の習得、課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を図ることで、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体が育める教育を目指します。

■施策指標

- ・授業のわかりやすさ指標⁶¹

現 状	平成27年	平成32年
小学5年生対象 1.14	小学5年生対象 1.20	小学5年生対象 1.30
中学2年生対象 0.72	中学2年生対象 0.85	中学2年生対象 1.00
(H21年度児童・生徒調査)	(H27年度児童・生徒調査)	(H32年度児童・生徒調査)

⁵⁹ ※ICT (Information and Communication Technology)

ICTとは、情報・通信に関連する技術一般の総称である。従来ひんばんに用いられてきた「IT」とほぼ同様の意味で用いられている。

IT (Information Technology) の「情報」に加えて「コミュニケーション」(共同)性が具体的に表現されている点に特徴がある。

⁶⁰ ※太陽光発電

太陽電池を利用して太陽の光エネルギーを電気に変換すること。ソーラー発電。

⁶¹ ※授業のわかりやすさ指標

数値の算出方法は「授業がわかりやすいか」との問いに対し、「はい」…+2、「どちらかと言うと、はい」…+1、「どちらかと言うと、いいえ」…-1、「いいえ」…-2 として数値化したもの。

■重点項目

- ・基礎的・基本的な知識と技能の習得と、活用力の向上、一人ひとりに応じた教育の充実が図られる授業改善
- ・環境教育の推進
- ・教育成果が向上する学習環境の充実
- ・教育活動全体を通じた道徳教育⁶²の推進
- ・特色ある学校づくりや自主的、自立的な学校運営実現のための保護者や地域との連携

(3)「生きる力」を育む市民活動の展開

■基本的な考え方

- ・「子どもは地域の宝」であるとの共通認識のもと、家庭・学校・地域が一体となり、市民挙げてこれからの子どもたちに、生きる力を育む活動を展開します。そのため、かつやま子ども応援ネットワークを推進母体とした市民活動を展開し、思いやりの心、正義感、倫理観、ふるさとを愛する心やたくましいチャレンジ精神などを養っていきます。

■施策指標

- ・児童・生徒の地域行事への参加指標⁶³

現 状	平成27年	平成32年
小学5年生対象 1.51	小学5年生対象 1.55	小学5年生対象 1.60
中学2年生対象 0.84	中学2年生対象 1.00	中学2年生対象 1.10
(H21年度児童・生徒調査)	(H27年度児童・生徒調査)	(H32年度児童・生徒調査)

■重点項目

- ・かつやま子ども応援ネットワークを推進母体とする活動の展開
- ・民間企業の応援参画促進
- ・地域行事に子どもが参加できる環境づくり
- ・子どもの安全安心活動の啓発と推進

2. 歴史遺産を活かしたまちづくりの実現

勝山市内には、豊かな自然環境の中で育まれた歴史と伝統があり、多くのすばらしい「歴史遺産」、「自然遺産」および「産業遺産」が存在します。

これら「遺産」の中でも特に、国史跡白山平泉寺旧境内⁶⁴や国重要文化財旧木下家住宅、

⁶² ※道徳教育

豊かな心をもち、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとした教育活動

⁶³ ※児童・生徒の地域行事への参加指標。

数値の算出方法は「地域行事に参加しているか」との問いに対し、「はい」…+2、「どちらかと言うと、はい」…+1、「どちらかと言うと、いいえ」…-1、「いいえ」…-2 として数値化したもの。

⁶⁴ ※国史跡白山平泉寺旧境内

昭和10年に指定を受け、平成9年に約200ヘクタールに拡大指定を受けた国の史跡(重要文化財)。

県指定文化財三室遺跡などの「歴史遺産」を中心にすえ、積極的な保存・整備・活用を図ることで、市民がそれぞれの「遺産」に理解と認識を深め、地域に誇りを持ち、まちづくりに主体的に関わることができるような環境整備を推進します。

(1) 国史跡白山平泉寺旧境内を中核にすえたまちづくり

■基本的な考え方

- ・日本屈指の中世宗教都市遺跡である国史跡白山平泉寺旧境内を適切に保存するとともに、継続的な発掘調査と史跡整備により、積極的な保存活用と認知度の向上を図ります。さらには霊峰白山への参詣道である越前禅定道等の整備を図る中で、白山とその山麓の歴史遺産の魅力を広く伝えていきます。

あわせて、地域住民の生活環境の改善と石垣や屋敷割り等に中世の平泉寺僧坊跡の面影を残す平泉寺集落の歴史的景観との調和のとれた整備を行います。

■施策指標

- ・学術研究書、新聞報道等への国史跡白山平泉寺旧境内関連の登載件数

現 状	平成27年	平成32年
10件 (H22年度見込み)	60件 (H23～H27年度累計)	130件 (H23～H32年度累計)

■重点項目

- ・国史跡白山平泉寺旧境内の理解や関心を深めるための拠点施設（ガイダンス施設）と周辺の整備、および継続的な発掘調査の実施
- ・重要遺構の公有地化推進
- ・世界遺産⁶⁵登録の推進
- ・白山（越前）禅定道の整備、活用

(2) 歴史遺産の保護・活用の推進

■基本的な考え方

- ・市内にある多くの歴史遺産の保護、保存および活用を推進していきます。

平成22年度に国重要文化財として指定された旧木下家住宅⁶⁶の本格的な修繕を行い、公開、活用を図っていきます。また、修繕後は、地区集会場など地元における利活用を図るとともに、昔の生活に触れることのできる貴重な施設として学校教育や生涯学習にも

⁶⁵ ※世界遺産

世界遺産条約に基づき、人類共通の宝物として未来の世代に引き継いでいくべき文化財や遺跡、自然環境として世界遺産委員会に登録された有形の不動産。文化遺産・自然遺産・複合遺産の3種がある。

⁶⁶ ※国重要文化財旧木下家住宅

平成22年6月29日付けで国の重要文化財に指定された江戸時代後期の民家で、建築されて170年以上が経過した勝山市を代表する歴史的建造物（所在地：北郷町伊知地）。

活用します。

勝山市の発展に貢献してきた先人の足跡に触れ、郷土の魅力を再発見するため、市内に点在する歴史遺産や石碑などについて、調査研究を進めます。また、その成果を展示普及するため、勝山城博物館との連携を強化します。

■重点項目

- ・歴史遺産の保護、保存、活用の推進
- ・勝山城博物館との連携強化
- ・勝山の歴史人物の紹介
- ・国重要文化財旧木下家住宅の修繕と管理、活用
- ・県指定文化財三室遺跡⁶⁷の保存、活用の推進

3. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進

市民一人ひとりが夢や希望を持ち、個性を發揮しながら、生涯にわたって主体的・創造的に学び、行動するために、各種学習機会を提供します。また、地域・自然との関わりを重視して人づくりを進めます。さらに、図書館を通じての生涯学習の推進のため、図書館機能を充実します。

勝山の歴史や地質を学習できる機会を充実する中で、郷土愛を育み、勝山市の魅力を次代に伝える環境を整備します。

(1) 学習機会と施設の充実

■基本的な考え方

- ・少子高齢化、情報化、国際化等により社会環境が急速に変化する中で、市民一人ひとりが時代にあった生きがいに満ちた心の触れあうことができる自分を磨くことが大切です。誰もがいつでも自主的に自由に学ぶことができる多様な学習機会の提供と充実を図ります。また、市民大学とさわやか大学を発展的に統合させ、より市民が参加しやすい大学「市民総合大学（仮称）」の開講を目指します。

■施策指標

- ・市民総合大学（仮称）の開講

現 状	平成27年	平成32年
—	(仮称) 市民総合大学の開講	—

⁶⁷ ※県指定文化財三室遺跡

九頭竜川の左岸、遅羽町崎崎の河岸段丘上にあり、福井県内では最も早くから知られた縄文遺跡の一つ。勝山市の歴史を知る貴重な遺跡として、県の指定文化財になっている。

基本計画【第5章】

・公民館での学級・講座への参加者数

現 状	平成27年	平成32年
3,415人 (H21年度実績)	19,000人 (H23～H27年度累計)	45,000人 (H23～H32年度累計)

■重点項目

- ・市民大学の充実
- ・さわやか大学の充実
- ・市民総合大学（仮称）の開講に向けての取組み、開講
- ・公民館での学級、講座の充実
- ・学習の場、研修の場である市民会館、教育会館、公民館施設の整備と充実

(2) リーダーの養成

■基本的な考え方

- ・幅広い分野における市民の生涯学習を進めるため、その指導者となるリーダーの養成を図ります。

そのための養成講座を市民総合大学（仮称）の中で開設するなど豊富な人材バンクの整備を目指します。また、1市民1自慢活動を推奨し、市民一人ひとりが自分に自信を持つようになることを目指します。

■施策指標

- ・リーダー養成講座への参加者数

現 状	平成27年	平成32年
—	100人 (H23～27年度累計)	200人 (H23～32年度累計)

■重点項目

- ・地域資源や人材を活かした学習活動の支援
- ・各種団体事業の支援
- ・1市民1自慢活動の推奨
- ・生涯学習人材バンクの整備
- ・リーダー養成講座の開催

(3) 自然体験学習・ジオパーク学習の推進

■基本的な考え方

- ・里地・里山の持つ自然環境や市内の山、川、恐竜、雪など自然を活用した自然体験学習を推進します。そのことにより、市民の環境意識の向上と地域資源への認識を深め、市民の誇りにつなげます。

基本計画【第5章】

- ・ジオパークセミナー等の開催を通して、市民、特に子どもたちが地球の歴史や身近な地質・地形遺産、自然・歴史・産業遺産、防災などを同時に学習できる機会を提供します。ジオパークを学び、楽しむことができる環境づくりを行い、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの素晴らしさを市民が共有することにより、市民の自信と誇りにつなげていきます。

■施策指標

- ・自然体験学習等への参加者数

現 状	平成27年	平成32年
979人 (H21年度実績)	6,500人 (H23～H27年度累計)	15,000人 (H23～H32年度累計)

- ・ジオパーク市民学習会、ジオパークセミナーへの参加者数

現 状	平成27年	平成32年
300人 (H22年度見込み)	1,500人 (H23～H27年度累計)	3,500人 (H23～H32年度累計)

- ・ジオパークセミナーへの子どもの参加者比率

現 状	平成27年	平成32年
—	延べ30%以上 (H27年度末)	延べ50%以上 (H32年度末)

■重点項目

- ・自然観察会の充実
- ・ワンダーフォーゲルin勝山の充実
- ・水芭蕉探勝登山等の充実
- ・「恐竜を描こう」図画作品コンクールの充実
- ・恐竜雪像コンテストの充実
- ・九頭竜川で川下り等の充実
- ・太陽光やリサイクル、間伐材を利用した環境の意識向上のための学習事業の推進
- ・ジオパーク市民講演会やジオパークセミナー等による市民への学習機会の提供
- ・学校教育の中でのジオパーク学習の実施
- ・ジオパークを担う人材、ジオパークガイド等の育成

(4) 図書館機能の充実

■基本的な考え方

- ・図書館を市民の学びと情報の拠点として、市民・学校・行政に資料や情報を提供していきます。また、貸出型図書館から情報発信・課題解決型図書館を目指し、情報発信・課題解決機能を強化していきます。さらに、市民が利用しやすい環境づくりを推進するとともに施設・設備を計画的にリニューアルしていきます。
読書環境の向上のため、子どもの読書活動推進計画を策定します。

■施策指標

- ・市民1,000人当たりの市立図書館への年間入館回数

現 状	平成27年	平成32年
3,330回 (H21年度実績)	3,530回 (H27年度末)	3,700回 (H32年度末)

■重点項目

- ・市民ニーズに対応した図書館資料の充実
- ・図書館ネットワーク機能の周知促進による相互貸借借受の推進
- ・「はたや記念館 ゆめおーれ勝山」との連携による利用促進
- ・施設・設備の整備、充実
- ・生活に役立つ「くらしのコーナー」、「健康・医療情報コーナー」、「ビジネスコーナー」などの設置
- ・子どもの読書活動推進計画の策定
- ・公民館との効果的な連携

4. 豊かな心と感性を育む文化芸術の振興

左義長まつりをはじめ、地域の伝統文化を保存継承するとともに、市民総合文化祭をはじめとする文化団体の文化芸術活動を支援することにより、市民の豊かな心と感性を育てていきます。

(1) 伝統文化の保存継承

■基本的な考え方

- ・本市の伝統文化を代表する左義長まつりをはじめ、地域に伝わる伝統文化の次世代への保存、継承を支援し、市民の地域への誇りと愛着を高めることで、地域の活性化を図ります。

■施策指標

- ・伝統文化継承講座への参加者数

現 状	平成27年	平成32年
—	150人 (H23～27年度累計)	400人 (H23～32年度累計)

■重点項目

- ・郷土芸能施設の整備、充実
- ・地域に残る伝統文化の保存、継承への支援
- ・伝統文化継承講座の開催

(2) 文化芸術活動の充実

■基本的な考え方

- ・市民に人間的豊かさと元気をもたらし、活力ある地域社会を目指すために、市民の自主的な文化芸術活動の活性化に向けて支援するとともに、文化団体の育成を図ります。

■施策指標

- ・市民総合文化祭の参加団体数

現 状	平成27年	平成32年
98 団体 (H22 年度見込み)	105 団体 (H27 年度末)	110 団体 (H32 年度末)

■重点項目

- ・市民総合文化祭の充実
- ・芸術劇場、文化講演会の充実
- ・個展、展示会開催への積極的な支援
- ・文化団体の育成、支援
- ・国、県文化芸術事業の活用
- ・市民の自主的な文化芸術活動への支援

5. 生き活きと輝くスポーツの振興

多様化する市民のニーズに対応し、誰もが気軽に生き活きとスポーツに親しむことができる機会を提供します。1市民1スポーツを目標に「するスポーツ」、「観るスポーツ」を推進するとともに、スポーツを通して市民の健康づくりを進めます。

(1) 競技スポーツと生涯スポーツの推進

■基本的な考え方

- ・市民の夢と自信、ふるさとへの誇りにつながる、競技スポーツの競技力向上を推進します。さらに、そのことにより、国民体育大会開催への市民の関心を高めます。また、市民のスポーツ活動への関心と、気軽にスポーツに参加する機運を高めるため、子どもから高齢者まで誰でも気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツの機会を増やします。また、市民の自主的なスポーツ活動を支援していきます。

■施策指標

- ・勝山恐竜クロカンマラソンへの参加者数（1開催あたり）

現 状	平成27年	平成32年
1,605 人 (H21 年度実績)	1,800 人 (H27 年度)	2,000 人 (H32 年度)

基本計画【第5章】

・健康ウォークへの参加者数

現 状	平成27年	平成32年
116人 (H21年度実績)	1,100人 (H23～H27年度累計)	3,200人 (H23～H32年度累計)

■重点項目

- ・競技力向上に向けた一流選手による指導
- ・ジュニアから一般までの一貫指導体制の強化、充実
- ・スポーツイベント等の充実
- ・勝山恐竜クロカンマラソン大会の充実
- ・越前禅定道修験者マラソンの充実
- ・サイクルフェスタの充実
- ・健康ウォークの推進
- ・ニュースポーツ⁶⁸の講習会および大会の充実
- ・スポーツ少年団の育成、支援
- ・市民体育大会の充実
- ・市民の自主的なスポーツ活動への支援

(2) 体育施設の整備・充実

■基本的な考え方

- ・市民の自主的なスポーツ活動、国民体育大会や市外、県外からの合宿等の利用にも十分対応できるような体育施設の整備・充実を図ります。そのことにより、体育施設のさらなる利用率のアップを目指します。
- また、新体育館の建設に伴い、既存の体育施設のあり方についてじゅうぶん検討し、その再配置、再整備の取組みを進めます。

■施策指標

・新体育館の建設

現 状	平成27年	平成32年
・あり方検討委員会を8回開催し議論 ・他県施設の視察、研究	建設工事	供 用

■重点項目

- ・新体育館の建設
- ・既存体育施設の再配置、再整備
- ・既存体育施設の耐震補強工事の推進

68 ※ニュースポーツ

競技性を重視せず、老若男女を問わず誰でも参加できることを目的としたスポーツの総称。

(3) 平成30年国民体育大会⁶⁹の開催

■基本的な考え方

- 平成30年の第73回国民体育大会において、バドミントン競技とクレール射撃競技の誘致、開催を目指します。また、市民に国民体育大会を身近に感じてもらい、市民一丸となって大会を盛り上げ、市民の心に残るような大会を目指します。

■施策指標

- 国民体育大会競技誘致

現 状	平成27年	平成32年
・バドミントン競技、クレール射撃競技の勝山市開催を県へ重要要望事項として提出	・バドミントン競技、クレール射撃競技の開催決定 (H24年度) ・国民体育大会の実行委員会の立ち上げと準備室の設置 (H25年度)	・プレ大会の開催 (H29年度) ・本大会の開催 (H30年度)

■重点項目

- 平成29年度のバドミントン競技とクレール射撃競技のプレ大会の開催
- 平成30年度のバドミントン競技とクレール射撃競技の本大会の開催
- 国民体育大会開催に向けて、選手の強化と指導者の育成およびボランティアの養成

⁶⁹ ※国民体育大会

国民の間にスポーツを普及させ、また、国民の体力の向上や体育の振興などを目的として、毎年各都道府県から選出された選手によって行われる総合競技大会。福井県を会場とした前回大会は昭和43年に開催されている。